

予算額

12,583,840 円

地域課題解決に向けた取組

1	取組の名称	「子どもの運動遊び、スポーツの必要性を多くの大人に理解してもらうために！」(はまっ子ふれあいスクールおよび放課後キッズクラブスタッフ向けの意識啓発セミナー)				
	趣旨・目的	本事業は、保護者、地域、体育指導員、青少年指導員、スポーツ指導者、放課後児童事業関係者などに、スポーツの力を生かした生涯スポーツ社会の構築、換言すれば、共生社会を創造する力量を身につける学習機会であり、そのための実践的指導力アップの講座を放課後施策支援スタッフ(はまっ子ふれあいスクールおよび放課後キッズクラブスタッフ)に向け14校にてセミナーをOJT(On-The-Job- Training)を実施。				
	内容	各放課後キッズクラブ・はまっ子ふれあいスクールへ3回の1パッケージとしてコーディネーターを派遣する。スタッフを対象に運動・スポーツに対する考えや子どもとの接し方等のレクチャーを行う。さらに、子ども達と一緒に運動指導を実施し、スタッフへ運動プログラムの紹介や子どもとの接し方についてスタッフのコンテンツ習得を目指す。				
	対象者	放課後施策支援スタッフ(はまっ子ふれあいスクールおよび放課後キッズクラブスタッフ)、保護者、地域、体育指導員、青少年指導員、スポーツ指導者、放課後児童事業関係者など	参加人数	588名	実施回数	98回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> レクチャーを行う事で、運動指導の実践の場でコンテンツ理解をスムーズにし、日常育成時にスタッフが、実践できるように何も道具を使わないプログラムや学校や各施設にあるボールを使った運動プログラムを提供した。 指導後のスタッフへアンケートをとり、指導前後の変化を把握した。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会にすでに運動遊び、運動・スポーツを実践的に指導する保護者、地域、体育指導員、青少年指導員、スポーツ指導者、放課後児童事業関係者が、「運動遊びや運動・スポーツの価値や意義の再確認を通じて、スポーツコミュニティの構築、すなわちスポーツにおける実践のコミュニティの構築を担う重要なキーパーソンであることを自覚することができた」、「外遊びが好きな子はもちろん、苦手な子も自然にみんなと一緒に遊ぶことができるのだと思いました」、「今の子どもたちの運動能力を知ることができて、運動の大切さを感じました」などの感想を得て、当初の目的である意識啓発の目標は達成された。 				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 今後の課題としては、意識啓発をさらに多くの関係者に行うこととそのプログラムの構築、恒常的に意識啓発できる仕組みの構築が重要な課題である。 				

小学校体育活動支援

派遣先学校総数	34 校
コーディネーター総数	34 名

◆効果を高めるための工夫や取組など

<ul style="list-style-type: none">横浜市教育委員会、横浜市小学校校長会、教員養成系大学との連携を図り、子どものスポーツ環境を形成する人材発掘のシステムづくりを図った。
<ul style="list-style-type: none">2011年11月5日に行われた事前会議ならびに実技研修会では、横浜市小学校校長会会長(山崎信也)、横浜市教育委員会の指導主事(近藤浩人、立花充)の方々を招き、小学校体育活動コーディネーターへ小学校体育の考え方・サポートの意識の共有を図った。
<ul style="list-style-type: none">教育的知見への理解として、横浜国立大学人間科学部・横浜市教育委員会・横浜市小学校校長会が共同で開発した『「横浜スタンダード」(小学校教員を目指す人のための「横浜スタンダード」準拠教育実習ノート』、笹川スポーツ財団の『スポーツ白書～スポーツの新たな価値の発見～』を体育活動コーディネーター・拠点小学校校長へ配布し、周知させた。
<ul style="list-style-type: none">拠点小学校校長へのヒアリングを通し、今後のニーズの確認を図った。
<ul style="list-style-type: none">小学校体育活動コーディネーターへのヒアリングを実施した。
<ul style="list-style-type: none">「地域課題解決の取組」と合わせ、児童の生活の場(学校・放課後)におけるスポーツ環境の複合的なサポートを行った。

◆成果と課題

[成果]

<ul style="list-style-type: none">横浜市教育委員会、小学校校長会、小学校体育研究会、放課後施策関係団体等と連携できるようになったことが、横浜市内全体の総合型地域スポーツクラブとしての成果といえる。総合型地域スポーツクラブが、地域のスポーツ指導者の集合体として、児童の実態に即した子どもの体力低下問題、遊びの減少問題等に縦割り行政では実現しにくい横の軸としてアプローチし、ネットィング出来た。
<ul style="list-style-type: none">小学校体育活動コーディネーター派遣に際し、市内教員養成系の大学との連携も大きな成果の一つと言える。

[課題]

<ul style="list-style-type: none">この「小学校体育活動コーディネーター派遣事業」の狙いを十二分に拠点小学校関係者に理解してもらう必要がある。 なぜ、小学校体育活動コーディネーターが必要で、その責務を総合型地域スポーツクラブが担っているのか。学校関係以外の総合型地域スポーツクラブ関係者にも時間をかけて理解してもらうことが課題であり、今後、中学校部活動指導者派遣などを視野に入れ、幅広く考える必要がある。

本事業全体の成果と課題

[成果と課題]

<ul style="list-style-type: none">平成23年度文部科学省「スポーツコミュニティの形成促進」事業が公募され、総合型地域スポーツクラブである特定非営利活動法人FCゴールが受託し、横浜市教育委員会、小学校校長会、小学校体育研究会をはじめたくさんの皆様と力を合わせ実施できたことは、単に小学校体育活動コーディネーター派遣事業ということだけではなく、総合型地域スポーツクラブが学校と連携しながら新しい時代の先駆けとして得たものは少なくない。
<ul style="list-style-type: none">小学校体育活動コーディネーター派遣は、拠点34小学校からは大変喜ばれた。 また、逆にお世話になった小学校体育活動コーディネーターからも教員になりたいとモチベーションアップにつながりました。まさにここでもWin Win関係が成立した。
<ul style="list-style-type: none">地域の課題として掲げました「子どもの運動遊び、スポーツの必要性を多くの大人に理解してもらうために！」(子どもの体力向上のために学校・地域・家庭でできること)に於いても好評を得て、拠点小学校内の放課後キッズクラブ・はまっ子ふれあいスクールのスタッフの方々から歓迎された。
<ul style="list-style-type: none">はじめの第一歩を踏み出したばかりの事業ではありますが、次年度の「地域のスポーツとトップスポーツの好循環推進プロジェクト」成功への足がかりになるものと実感している。 さらに次年度プロジェクトの参画者の中から、多くの教員志望者・地域スポーツ指導者が生まれるものと期待します。